令和６年度　事業報告　　施設名　　幼保連携型認定こども園　同朋にこにこ園

| 事業年度 | 定員(人) | | | 児童数(延人数) | | | 充足率(%) | | 延長保育利用人数（延人数） | | | | | | | | 一時保育 | 園庭開放他 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | ３０分延長 | | 1/1.5時間延長 | | ２時間延長 | | 日割り | | （延人数） | （延人数） | |
| 令和5年度　事業報告 | 203 人 | 1号 | 15 人 | 2,296 人 | 1号 | 176 人 | 1号 | 98 % | 238 | 名 | 258 | 名 | | 名 | 2,918 | 名 | 176 人 | 307 | 名 |
| | | 2,3号 | 188 人 | | 2,3号 | 2,120 人 | 2,3号 | 94 % | | | | | | | | | | | |
| 令和6年度　事業報告 | 203 人 | 1号 | 15 人 | 2,301 人 | 1号 | 167 人 | 1号 | 93 % | 443 | 名 | 169 | 名 | | 名 | 2,860 | 名 | 106 人 | 521 | 名 |
| | | 2,3号 | 188 人 | | 2,3号 | 2,134 人 | 2,3号 | 95 % | | | | | | | | | | | |
| ヒヤリハット　A（危険度重）B（危険度中）C（危険度軽） | | | | 事故報告（受診を要した件数） | | | | | 要望・意見・苦情　報告 | | | | | | | | | | |
| A:　15件　B:　85件　C:　93件 | | | | 13件 | | | | | 要望：　1件　意見：　1件　苦情：　2件 | | | | | | | | | | |

| 方針<br>基本<br>人 | 重点目標 | 計画(P) | 実践内容(D) | 評価(C) | 改善(A) |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権の尊重 | ○ 基本理念<br>・「人は大切、子は宝」<br>・「人間尊重と子ども第一主義」<br>・職員、子どもの人権擁護と虐待防止に努める | ・人権擁護チェックリストを実施(年2回)<br>・虐待チェックリストを実施(年3回)<br>・一人一人を大切にした保育を行う<br>・一人一人の人権を尊重し、性別や国籍障がいの有無によって区別することのない保育をおこなう<br>・虐待防止と早期発見に努める<br>・権利擁護の研修を全職員年1回受講する | ・「権利擁護」についての研修を行う（年1回）<br>・虐待サイン発見のチェックリストを用いて全<br>・園児チェックを行い、早期発見に努める<br>職員会議の前に「職員の心得」を読み合わせる<br>・人権擁護チェックリストを（実施年2回）<br>虐待マニュアルの見直し（令和7年2月） | ・毎月の職員会議で職員の心得を読み合わせることで、日々の保育の振り返りを行えたが職員間での気付きを話し合えるまでには至っていない<br>・権利擁護の研修を行ったが、振り返りが出来ていない<br>・虐待発見のチェックリストを用いていることで、日ごろからの気付きにつなげられた | ・権利擁護の研修を受講し、振り返りの研修を実施する（3月）<br>・職員間での子どもの関りに気付き、声を掛け合う体制継続を行う（8月）<br>・月に一度「職員の心得」の読み合わせを行い、日頃の保育の振り返りを継続し、８月の人権擁護研修の際に話し合う機会を作る<br>・虐待チェックの時だけでなく日々の保育の中で気付けるよう丁寧に関りを持つ |
| サービスの質の向上 | ○ 保護者支援<br><br>○ 保育の質の向上 | ・職員は保護者に寄り添い連携し些細な悩みにも対応し安心して子育てができるように支援する<br>・アンケート（年2回）、ご意見箱設置により保護者のご意見を園運営に反映させると共に保育の質の向上に努める | ・個別懇談の際に悩みや相談を把握し積極的に話しかける<br>・保護者アンケートを行う（さくらdaysにて配信）<br>・クラス担任と連携し、気になる子どもや親の情報を共有する<br>・心理カウンセラーに年3回来園してもらい、子どもの様子を観たり、保護者との相談時間を設ける | ・個別懇談で家庭の思いや悩みを園も共有できた<br>・心理カウンセラーから気になる子どもに対し、職員へのフィードバックを受けより丁寧な関りを持つことが出来た<br>・保護者アンケートの回収率は164家庭中120家庭の回答で73%であり、全体的には満足しているという回答であるが、自由記述欄に少数意見、要望があった | ・個別懇談の日程が決められていたので、仕事の調整等を考慮し、「懇談希望カード」に記入いただくことでより子育て相談や悩みなどを話しやすい機会を設ける<br>・心理相談日を年6回設け、保護者にも気軽に相談できる場や、職員にも多くの専門的な助言を頂くことで日々の保育の充実を図れるようにする<br>・アンケートの回収率が73%であったので回収率を上げられるようにしていきたい |
| 地域との共生 | ○ 子育て支援<br><br>○ 学校、関係機関との連携<br><br>○ 地域との関わり | ・地域にチラシを配布したり、インスタグラム等で配信したり、園庭開放や「にこにこ喫茶」への参加を呼びかける<br>・一時保育の受け入れ<br>・小学校、中学校、老人施設との連携と交流<br>・いぶき明生支援学校の就職体験受け入れ等の連携と交流<br>・区役所、警察署、消防署との連携<br>・井吹西ふれあいのまちづくり協議会、主任児童委員、老人会との連携及び交流<br>・年齢別定員数変更の検討 | ・にこにこ喫茶のチラシを近隣へ配布する<br>・トライやる受け入れ（８名）<br>・ワークキャンプ受け入れ（３名）<br>・実習生の受け入れ（８名）<br>・5歳児が井吹西青少年育成協議会と井吹台西公園清掃<br>・地域子育て事業を積極的に行う（インスタグラムで発信する）<br>・井吹西小学校との交流会（年3回実施）<br>・地域の集まりに参加（敬老の日に交流会参加）<br>・KOBE元気シニアポイントによるボランティア受け入れ（1名）<br>・年齢別定員変更について理事会に上程 | ・インスタグラム等で参加される方が増えてきた<br>子育て応援事業を中心に広がっている<br>・地域子育て応援事業がインスタグラムを通して参<br>・加人数が増えて定員を超す申し込みも出てきている<br>・月1回年長クラスと青少年育成協議会と一緒に地域清掃を実施<br>・井吹西小学校と一緒に話し合いながら交流会ができるようになり連携がとれるようになった<br>・地域との交流も少しずつ出てきて交流会に参加するようになった<br>・待機児童解消の役割を終えた分園のあり方も併せて検討する | ・子育て応援事業は輪が広がり参加人数も増えてきている分、定員になることもあったので職員の確保や環境を考え少しでも参加人数を上げるようにする。<br>・小学校との交流が増えてきているが、小学校からの発信が多いので自園からも打診できるように考えていけるようにする。<br>・少しずつ実習生が減ってきているので保育士確保の点からも受け入れを広げて実習生を受け入れるようにする<br>・令和７年度６月、神戸市に本園、分園の年齢別定員変更を申請する |
| 人材育成 | ○ 職員の質の向上<br><br>○ 人材確保 | ・権利擁護、危機管理意識を高める<br>・保育環境、保育内容の充実をはかる<br>・スキルアップのためのキャリアアップ研修の受講<br>・養成校との連携、実習生への働きかけＳＮＳでの発信を強化し人材確保に努める | ・権利擁護の園内研修を行う<br>・ヒヤリハットの前年度当月に起こったものを伝え危機管理につなげる<br>・園外研修の報告会を年４回計画する<br>・キャリアアップ、公私合同研修に参加する<br>・就職フェアに参加したりSNSで園の様子を載せて学生の興味を持ってもらえるようにする | ・ヒヤリハットなどの前年度の同じ月に多かったものを伝えることで危機管理を意識することができた<br>・園外研修の報告会を行うことで全職員のスキルアップにつながった<br>・就職フェアを通しても職員確保に繋げることができなかった | ・危機管理でヒヤリハット、事故の見直しと共に危険予知トレーニングを行えるようにしていきたい<br>・今後も園外研修報告会を続けて職員のスキルアップにつなげていきたい<br>・就職フェアやSNS等を使って福利厚生の充実や働きやすさをアピールし、養成校にも積極的にアプローチをかけたりインターシップ制度などを伝えたりし、職員確保につなげる |